

令和7年度
地域提案型交通安全支援事業運営支援業務
事業報告書

令和8年3月

内閣府政策統括官（共生・共助担当）

目 次

I. 令和7年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的	1
2. 事業の概要	1
3. 実施地区概要	2

II. 実施地区の報告

1. 和歌山県	3
2. 徳島県	16

資料	28
1. 事前打合せ資料	29
2. 実施マニュアル (例)	36
3. アンケート調査票	
(和歌山県)	44
(徳島県)	47

I. 令和7年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的

本事業は、内閣府が地方公共団体の提案を受け、当該地域の実情を踏まえた上で、当該地域において必要な交通安全に資する事業を実施することにより、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的とする。

2. 事業の概要

都道府県、市町村、所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等との連携・協力の下、実施地区ごとに交通ボランティア等を中心とする実行委員会を設置する。

実行委員会は、参加者の理解・共感を促し、地域の交通実態に合った参加・体験・実践型のプログラムを決定し、これを実施する。

プログラムの実施後には、実施結果等を踏まえて、今後の当該地域における交通安全活動がより効果的・効率的なものとなるよう、実行委員会としての意見を取りまとめる。

(1) プログラム実施期間

令和7年10月～11月に実施

(2) 実施地区等

①和歌山県、徳島県において実施

②実施地区は、都道府県または政令指定都市からの提案に基づき、地域ごとの交通事故発生状況、交通安全教育事情等を考慮して選定

(3) 参加者

①和歌山県：和歌山県立和歌山北高校生徒 890名

②徳島県：県内の65歳以上の者等 41名

(4) 実施方法

①実施地区ごとに実行委員会を設置し、各地区の実情に即したプログラム内容や参加方法等を検討し、プログラム当日の運営等を行った。

②プログラム実施後は、参加者及び実行委員を対象としたアンケート調査をそれぞれ実施するとともに、本事業を実施した結果を踏まえ、地域における交通安全活動の実施方法・内容等が今後より効果的かつ効率的なものとなるよう意見を取りまとめた。

③実行委員会の設置を始めとした事業実施に際しては、都道府県、実施市町村及び地域において日常的に交通安全活動を行っている交通ボランティア団体を始めとした関係団体や機関（所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等）との連携を図り、協力を得て実施した。

3. 実施地区概要

(1) 実施地区・期日・会場等一覧

No.	開催県	実施市町村	実施期日	実施会場
1	和歌山県	—	11月5日(水)	和歌山北高等学校
2	徳島県	—	10月18日(土)	徳島県運転免許センター

(2) 実施地区の参加者数一覧

No.	開催県	実施市町村	参加者総数	内 訳
1	和歌山県	—	890名	和歌山北高等学校生徒
2	徳島県	—	41名	県内の65歳以上の者等

Ⅱ. 実施地区の報告

和歌山県

●事業の概要

1. 事業名

北高生から広めよう地域の交通安全
—令和7年度 地域提案型交通安全支援事業—

2. 主催

内閣府、和歌山県

北高生から広めよう地域の交通安全実行委員会

3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

4. 実施会場

和歌山県立和歌山北高等学校

5. 実施日時

令和7年11月5日(水) 午後1時05分～午後3時00分

6. 参加者

和歌山北高等学校生徒等 890名

7. プログラム内容

【屋内】

- ・開会式(主催者挨拶等)
- ・交通安全講話
- ・生命のメッセージ展(一部屋外)
- ・閉会式(講評)

【屋外】

- ・スケアード・ストレイト
- ・閉会(所轄警察署挨拶、生徒代表お礼の言葉)

8. 実施体制

本事業は、地域の交通事故発生状況、交通課題等を考慮した内容とするため、和歌山県のほか、交通安全教育や交通安全活動等に携わっている関係団体等が中心となってプログラムの企画・運営にあたった。

9. 実行委員会等開催経過

①事前打合せ

期日：令和7年8月26日(火)

会場：和歌山県環境生活部会議室

協議事項：事業趣旨説明

実施日及び実施会場の確認

実施プログラム（案）の検討

参加予定者の検討

実行委員会設置に関する検討

実施準備に関する確認

②第1回実行委員会

期日：令和7年10月1日（水）

会場：和歌山県環境生活部会議室

協議事項：大会名及び事業概要について

当日のプログラムについて 等

③第2回実行委員会（事後）

期日：令和7年12月18日（木）

会場：和歌山北高等学校会議室

協議事項：参加者へのアンケート集計結果報告

反省と今後の課題について（意見交換）

実行委員へのアンケート調査

10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

①実施についての感想

- ・生徒へのアンケート結果から、「今回の教室についてどう感じたか」という設問については「とても良かった」、「良かった」が約97.4%を占め、その理由については、「交通事故は危険と知っていたが、いざ再現を目の当たりにしたら危険がたくさんあることが理解できた」、「交通事故の被害の大きさと、自転車用ヘルメット着用の大切さを学んだ」、「普段から自転車にどう乗れば良いのか改めて勉強した」など、体験を通じて交通事故の怖さ、命の大切さに気付いてもらえたと考える。若干ではあるが、「普通」と回答した生徒の理由を見ると、「交通事故が危険なことは理解できたが刺激が強く、少し怖さを感じた」との感想もあり、交通事故の恐怖を強く感じ過ぎてしまったのではと推測され、伝えることの難しさが感じられた。

②成果と課題・今後の取り組み

（成果）

- ・アンケート調査結果から、参加者の約8割が今回の交通安全教室の内容・ねらいを理解できており、今後の交通安全への意識付けにもなり、十分な効果があったと思われる。
- ・スケアード・ストレイトは、生徒に対するインパクトがあり、交通安全意識の

向上のために有効な手段ではあるが、若干刺激が強すぎると感じてしまう生徒もいるので、トラウマにならないような配慮も必要である。

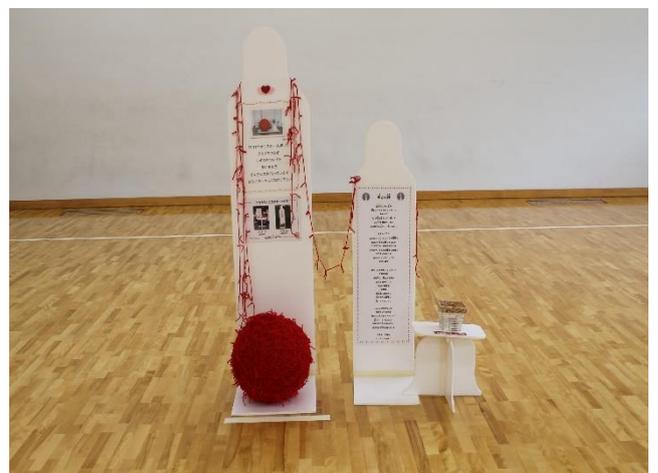
(課題・今後の取り組み)

- ・体験して感じたことを周囲で共有し、地域ぐるみで意識を高めることが重要。
- ・一度のみの体験ではなく、繰り返し交通安全を訴えることが求められる。

11. 実施の様相



(開会式)



(生命のメッセージ展)



(生命のメッセージ展)



(生命のメッセージ展)



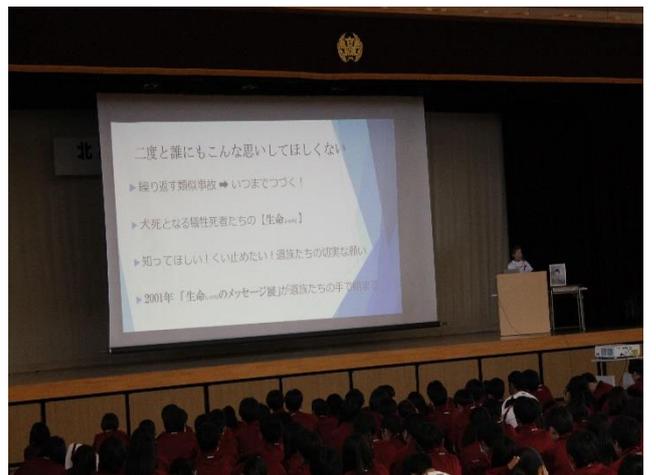
(生命のメッセージ展)



(生命のメッセージ展)



(交通安全講話)



(交通安全講話)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)

12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（和歌山北高校 生徒等）、実行委員

1. 和歌山北高校 生徒（回答者数：680名）

(1) 交通安全について普段誰かと話すことがあるか（複数回答）

交通安全について誰かと話すかについて、「家族」が46.9%、「友だち」が23.1%であった一方、「だれとも話さない」とする回答が34.7%であった。（表1）

表1 交通安全について誰かと話すか（問1）

先生	21名	3.1%
家族	319名	46.9%
友だち	157名	23.1%
だれとも話さない	236名	34.7%

(2) 交通安全教室に参加して

今回の行事に参加して、参加者の65.7%（447名）が「とても良かった」、次いで25.9%

(176名)が「良かった」と回答し、両者で91.6% (623名)を占めた。(表2)

表2 今日の行事に参加して (問2)

とても良かった	447名	65.7%
良かった	176名	25.9%
普通	44名	6.5%
良くなかった	3名	0.4%
全然良くなかった	1名	0.1%

※未回答9名 (1.3%)

【理由】

とても良かった／良かった

■生命のメッセージ展／交通安全講話

- ・亡くなられた方が実際に履いていた靴等を見て、交通安全の大切さを理解できた
- ・交通安全講話がとても心に染み、悲しくなった
- ・実際に体験されたお話を聞くことができた

■スケアード・ストレイト

- ・交通安全についてとても考えさせられたし、わかりやすかった
- ・いつもの交通安全教室よりも、より深くのことを学ぶことができた
- ・話を聞くだけでは知れないことを実感できた
- ・自転車通学なのでマナーなどについて理解できた
- ・実際どんな交通事故が起きているのかとてもわかりやすかった
- ・どの場面でどんな危険があるか知ることができた
- ・テレビ越しに話を聞くことはあったが、実際に話を聞くことはないから
- ・交通ルールを守らなかつたらどうなるかが理解できた
- ・事故の動画は見たことがあるが、少しの速度でも危険であることを知った
- ・交通ルール、マナーを守らないと事故が起きることを再度理解した
- ・スタントマンの実演は臨場感があって衝撃を受けた
- ・死角などの危険性も理解できた
- ・今生きていることが当たり前ではないと感じた
- ・被害の大きさとヘルメット着用の重要さを教えていただいた
- ・ながら運転が危険であることが理解できた
- ・事故が起きないようにする良い例も実施してくれて勉強になった
- ・自転車は便利な乗り物だが乗り方を間違えると危険であると認識した
- ・自転車でも相手を怪我させてしまうことがわかった
- ・交通事故を知らない私に、怖さとルールを守ることの大切さを教えていただいた

(3) 各プログラムについて

① 生命のメッセージ展

表3 生命のメッセージ展 (問3-1)

大変良かった	416名	61.2%
良かった	158名	23.2%
ふつう	78名	11.5%
良くなかった	11名	1.6%
全然良くなかった	3名	0.4%

※未回答14名 (2.1%)

② 交通安全講話

表4 交通安全講話 (問3-1)

大変良かった	409名	60.1%
良かった	165名	24.3%
ふつう	81名	11.9%
良くなかった	8名	1.2%
全然良くなかった	3名	0.4%

※未回答14名(2.1%)

③ スケアード・ストレイト

表5 スケアード・ストレイト (問3-1)

大変良かった	483名	71.0%
良かった	119名	17.5%
ふつう	55名	8.1%
良くなかった	7名	1.0%
全然良くなかった	0名	0%

※未回答16名(2.4%)

(4) 参加して感じたこと(複数回答)

行事に参加しての今の気持ちについて、特に「交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった」、「道路でまわりの車や人に注意して行動しようという気持ちが強くなった」との回答が高い割合を占めた。(表6)

表6 行事に参加して感じたこと (問3-2)

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	581名	85.4%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	470名	69.1%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	285名	41.9%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	191名	28.1%
ヘルメットを着用しようという意識が強くなった	161名	23.7%
特に変わりはない	18名	2.6%

※未回答10名(1.5%)

(5) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の54.6%(371名)が「参加したい」と回答した一方、「どちらともいえない」とする回答が38.7%(263名)であった。(表7)

表7 今後の参加について (問4)

参加したい		参加したくない		どちらともいえない	
371名	54.6%	37名	5.4%	263名	38.7%

※未回答9名(1.3%)

【理由】

参加したい

- ・身に染みて事故の怖さを知り伝えていく必要がある
- ・交通事故は他人事だと思っている人も多いから、注意して行動できるようにしたい
- ・より危機管理意識が強まった
- ・将来車を運転する時のために今から学んでおきたい
- ・多くの人に交通事故の怖さを知ってほしい
- ・実際に見たり体験することで、危険や怖さを知ることができる
- ・知識として学べ、対策の仕方もわかり、普段の生活でも役立つため
- ・自分の知らないことを知ることができる
- ・もっと交通安全や事故について知っていきたい
- ・普段気にしていなかったこと、忘れていた怖さに気づくことができた
- ・交通安全について考え直すことができる
- ・しっかり自分が行動できているか見つめ直すことができる
- ・どのように事故が起きるか知ることができる
- ・交通事故の怖さや、大切なことをいつまでも覚えておきたい
- ・自分自身の良い経験として参加したい
- ・自分もいつ交通事故に遭うかわからないから
- ・自転車に良く乗るので危険なことについてもっと知りたい
- ・自分が自転車をどれだけ安全に利用できているかを確認できる
- ・自転車は危険だという意識が強くなるから
- ・通学時や下校時に起きやすい交通事故について知りたいと思った
- ・今までの自分の行動を振り返ることができるから
- ・いつ交通事故が自分の身に降りかかるかもしれないので、未然に防ぎたい
- ・在学中、安全に過ごすための知識が得られる

参加したくない／どちらともいえない

- ・今回で十分理解できた
- ・学校でやるなら良いが、外では時間がかかるので
- ・刺激が強い、怖かった
- ・学校行事ならばよいが、部活等の時間が削られるならば控えたい
- ・参加したい気持ちもあるが、少し怖いから
- ・自分は常に気を付けている
- ・あまり興味がない、時間も長い
- ・機会があれば参加したい

2. 実行委員（回答者数：15名）

（1）実行委員の属性

実行委員の所属は、学校関係が40.0%（6名）、行政が26.7%（4名）、交通安全協会、警察がそれぞれ13.3%（2名）、交通安全母の会が6.7%（1名）であった。（表8）

表8 実行委員の所属・種別（問1）

交通安全協会	2名
	13.3%
交通安全母の会	1名
	6.7%
学校関係	6名
	40.0%
行政	4名
	26.7%
警察	2名
	13.3%
その他	0名
	0%

（2）プログラムの評価について

- ① 自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の73.3%（11名）が「大変良かった」、20.0%（3名）が「良かった」と回答した。（表9）

表9 今日の行事は（問2）

大変良かった	11名	73.3%
良かった	3名	20.0%
ふつう	1名	6.7%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

② プログラムの評価

表10 生命のメッセージ展（問2-2）

大変良かった	12名	80.0%
--------	-----	-------

良かった	2名	13.3%
ふつう	1名	6.7%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

表 11 交通安全講話（問 2-2）

大変良かった	6名	40.0%
良かった	8名	53.3%
ふつう	1名	6.7%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

表 12 スケアード・ストレイト（問 2-2）

大変良かった	10名	66.7%
良かった	5名	33.3%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

③ 参加者数について

表 13 行事への参加者数は（問 2-3）

想定より多かった	3名	20.0%
想定どおりだった	12名	80.0%
想定より少なかった	0名	0%

（3）本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の93.3%（14名）が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう」、26.7%（4名）が「家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう」と回答した。（表 14）

表 14 達成できたと思うこと（問 3）

交通ルールやマナーの大切さを理解してもらう	14名	93.3%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛けを通じて交通事故防止につなげる	1名	6.7%
行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	2名	13.3%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	4名	26.7%
その他	1名	6.7%

※その他とするものは、「高校生自ら交通安全、マナーについて考えるきっかけになったと思う」とするものであった。

（4）交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

- ① 本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の80%（12名）が「大変役立った」、「役立った」と回答した。（表 15）

表 15 知識や技術向上の機会となったか（問 4-1）

大変役立った	7名	46.7%
役立った	5名	33.3%
ふつう	3名	20.0%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%

- ② 本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについて実行委員の 73.3%（11名）が「交通安全に関する知識の習得」、53.3%（8名）が「行政や警察、他団体との連携」と回答した。（表 16）

表 16 有益だったと思うこと（問 4-2）

交通安全に関する知識の習得について	11名	73.3%
交通安全教育を行う際の指導方法について	2名	13.3%
交通安全教室実施のための企画立案について	1名	6.7%
交通安全教室の運営について	1名	6.7%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	1名	6.7%
行政や警察、他団体との連携について	8名	53.3%
その他	0名	0%

- ③ 本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、66.7%（10名）が「一部活用していきたい」、33.3%（5名）が「活用していきたい」と回答した。（表 17）

表 17 今後の活用予定（問 4-3）

活用していきたい	5名	33.3%
一部活用していきたい	10名	66.7%
どちらともいえない	0名	0%
活用することは難しい	0名	0%

- ④ 本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の 53.3%（8名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した。（表 18）

表 18 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-5）

実施したいし、可能だと思う	8名	53.3%
実施したいが、困難だと思う	4名	26.7%
実施したいと思わない	0名	0%
どちらともいえない	3名	20.0%

- (5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）

・警察＋行政＋地域と連携しての地域における交通マナーの指導

- ・全校生徒対象ではなく学年対象とした方がよい
- ・定期的に高頻度で、子どもから高齢者まで様々な対象での実施
- ・地域密着でこのようなイベントの開催（地域の人にも声掛け）
- ・自身の登下校を振り返り実践する機会
- ・県内の有名企業等と連携した交通安全の広報
- ・定期的に啓発できるようなシステムの構築

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。(自由記述)

- ・体験型の啓発が効果的と再認識した
- ・中高生に対する自転車交通安全教室や自転車の交通ルール遵守の重要性
- ・自動車や自転車に乗る時は相手を思いやること
- ・生命のメッセージ展を通じて、改めて交通安全に対する意識が高まった
- ・面前で交通事故再現を見せることはインパクトが大きい
- ・様々な角度や体験によって、一層交通安全に対する知識を習得していきたい
- ・交通事故の犠牲者を出してはならないと改めて思った
- ・交通安全についての知識を教育現場に活かそうと思った
- ・交通安全について生徒・教員が意識できる場が必要と感じた
- ・高校生に対し交通安全教育を継続的に行う重要性
- ・命の尊さ、交通事故の怖さ
- ・交通ルール遵守の大切さ
- ・教室の企画、運営は大変であろうと改めて感じた

(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)

- ・とても充実した内容だった
- ・(キャパの面で難しいと思うが) 折角の機会なので、生徒だけでなく保護者の参加も考えて欲しかった

※各表の構成率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

徳島県

●事業の概要

1. 事業名

高齢者交通安全体験フェア（内閣府：地域提案型交通安全支援事業）

2. 主催

内閣府

高齢者交通安全体験フェア実行委員会

3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

4. 実施会場

徳島県運転免許センター

5. 実施日時

令和7年10月18日(土) 午前9時00分～正午

6. 参加者

県内の65歳以上の者等 41名

7. プログラム内容

- ・開会式(主催者挨拶等)
- ・サポートカー試乗体験
- ・スケアード・ストレイト見学
- ・閉会式(講評)

8. 実施体制

本事業は、地域の交通事故発生状況、交通課題等を考慮した内容とするため、徳島県のほか、交通安全教育や交通安全活動等に携わっている関係団体等が中心となってプログラムの企画・運営にあたった。

9. 実行委員会等開催経過

①事前打合せ

期日：令和7年8月21日(木)

会場：徳島県生活環境部消費者政策課

協議事項：事業趣旨説明

実施日及び実施会場の確認

実施プログラム(案)の検討

参加予定者の検討

実行委員会設置に関する検討

実施準備に関する確認

②第1回実行委員会

期日：令和7年9月18日(木)

会場：徳島県生活環境部消費者政策課

協議事項：大会名および事業概要について

当日のプログラムについて

役割分担等について

その他

③第2回実行委員会（事後）

期日：令和7年12月2日（火）

会場：徳島県生活環境部消費者政策課

協議事項：参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）

10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

①実施についての感想

- ・参加者に対するアンケート結果から、「今回の行事に参加してどう感じたか」の設問について、「大変良かった」、「良かった」とする回答が87.2%と約9割を占めており、効果的な交通安全体験フェアであったものとする。
- ・プログラムの評価についても、特に「スケアード・ストレイト」で92.3%の参加者が「大変良かった」、「良かった」と回答しており、普段なかなか目にすることのない交通事故の再現を取り入れたことで、交通安全意識の高揚に寄与できたものとする。

②成果と課題・今後の取り組み

- ・何よりも関係機関・団体の連携、協力が重要
- ・交通安全教室は一回のみの実施でなく、継続して行うことが大切
- ・この規模のイベント実施には財源の確保が課題

11. 実施の様相



（ 開会式 ）



（ サポートカー試乗体験 ）



(サポートカー試乗体験)



(サポートカー試乗体験)



(サポートカー試乗体験)



(サポートカー試乗体験)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(講評)

12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（65歳以上の者等）、実行委員

1. 参加者（回答者数：39名）

(1) 参加者の属性

① 属性

参加者の男女別では男性が48.7%（19名）、女性が51.3%（20名）となっている。

（表1）

表1 参加者の男女別内訳（問1）

男性	19名	48.7%
女性	20名	51.3%

参加者の年齢別では70代が46.2%（18名）と最も多く、次いで80歳以上が41.0%（16名）となっている。（表2）

表2 参加者の年齢別内訳（問1）

60歳未満	1名	2.6%
60代	4名	10.3%

70代	18名	46.2%
80歳以上	16名	41.0%

運転免許の保有について、ありが74.4% (29名)、なしが7.7% (3名) となっていて、返納したとの回答はなしであった。(表3)

表3 参加者の運転免許保有内訳 (問1)

あり	29名	74.4%
なし	3名	7.7%
返納した	0名	0%
未回答	7名	17.9%

(2) 今日の行事に参加したきっかけ (複数回答)

今日の行事に参加したきっかけは、「市町等・敬老会からの案内」が69.2% (27名)、「交通安全に興味があった」が38.5% (15名)、との回答が多くを占めた。

なお、「その他」とあるのは「交通安全母の会として」とするものであった。(表4)

表4 参加の動機 (理由) (問2: 複数回答)

交通安全に興味があった	15名	38.5%
市町等・敬老会からの案内	27名	69.2%
知人に誘われた	4名	10.3%
家族に勧められた	4名	10.3%
おもしろそうだった	2名	5.1%
その他	3名	7.7%
未回答	2名	5.1%

(3) 今日の行事に参加して

① 感想

今回の行事に参加して、参加者の51.3% (20名) が「大変良かった」、次いで35.9% (14名) が「良かった」と回答し、両者で87.2% (34名) を占めた。(表5)

表5 今日の行事に参加して (問3-1)

大変良かった	20名	51.3%
良かった	14名	35.9%
ふつう	4名	10.3%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
未回答	1名	2.6%

② プログラムの評価

表6 サポートカー試乗（問3-2）

大変良かった	20名	51.3%
良かった	14名	35.9%
ふつう	4名	10.3%
良くなかった	0名	0%
全然よくなかった	0名	0%
未回答	1名	2.6%

表7 スケアード・ストレイト（問3-2）

大変良かった	31名	79.5%
良かった	5名	12.8%
ふつう	1名	2.6%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
未回答	2名	5.1%

（4）参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で無回答を除くほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した（表8）。

表8 各項目についての今の気持ち（問4）

	はい		いいえ		未回答	
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
家族で、交通安全について日常的に話し合ったり考えたりすることが大切という気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
友人や仲間と、交通安全について話し合おうという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
地域の子どもたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
交通安全のために、あなた自らが地域で何か役割を果たそうという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
これからも機会があれば交通安全教室に参加しようという気持ちが高まったか	38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%

（5）開催日（曜日を含む）について

開催日について、未回答を除く参加者の全員が「良かった」と回答した。（表9）

表9 開催日（曜日を含む）について（問5-1）

良かった		良くなかった		未回答	
38名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%

(6) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、74.4% (29名) が「良かった」とする一方、「長かった」とする回答も20.5% (8名) 見られた。(表10)

表10 行事全体の時間の長さについて (問5-2)

良かった		長かった		短かった		未回答	
29名	74.4%	8名	20.5%	1名	2.6%	1名	2.6%

(7) 行事の周知方法について

行事の周知方法について、89.7% (35名) が「良かった」と回答した。(表11)

表11 行事の周知方法について (問5-3)

良かった		良くなかった		未回答	
35名	89.7%	2名	5.1%	2名	5.1%

(8) プログラムの数について

プログラムの数について、参加者の94.9% (37名) が「良かった」と回答した。(表12)

表12 プログラムの数について (問5-4)

良かった		多かった		少なかった		未回答	
37名	94.9%	0名	0%	1名	2.6%	1名	2.6%

(9) プログラムの中での説明の仕方について

各プログラムの中での説明の仕方について、参加者の94.9% (37名) が「良かった」と回答した。(表13)

表13 プログラムの中での説明の仕方について (問5-5)

良かった		良くなかった		未回答	
37名	94.9%	1名	2.6%	1名	2.6%

(10) 全体の流れ (進行) について

全体の流れ (進行) について、参加者の94.9% (37名) が「良かった」と回答した。(表14)

表14 全体の流れ (進行) について (問5-6)

良かった		良くなかった		未回答	
37名	94.9%	1名	2.6%	1名	2.6%

2. 実行委員（回答者数：4名）

（1）実行委員の属性

実行委員の所属は、交通安全協会が 50.0%（2名）、老人クラブ・老人会、行政が 25.0%（1名）であった。（表 15）

表 15 実行委員の所属・種別（問 1）

	実行委員
老人クラブ・老人会	1名
	25.0%
交通安全協会	2名
	50.0%
行政	1名
	25.0%
警察	0名
	0%
その他	0名
	0%

（2）プログラムの評価について

① 自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の 25.0%（1名）が「大変良かった」、75.0%（3名）が「良かった」と回答し、両方で 100%となった。（表 16）

表 16 今日の行事は（問 2-1）

大変良かった	1名	25.0%
良かった	3名	75.0%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
未回答	0名	0%

② プログラムの評価

表 17 サポートカー試乗（問 2-2）

大変良かった	1名	25.0%
良かった	3名	75.0%
ふつう	0名	0%

良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
未回答	0名	0%

表 18 スケアード・ストレイト (問 2-2)

大変良かった	4名	100%
良かった	0名	0%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
未回答	0名	0%

③ 参加者数について

表 19 今日の行事は (問 2-3)

想定より多かった	1名	25.0%
想定どおりだった	3名	75.0%
想定より少なかった	0名	0%
未回答	0名	0%

(3) 本事業で達成できたと思うことについて (複数回答)

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の100% (4名) が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう」、50% (2名) が「行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる」、「家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう」と回答した。(表 20)

表 20 達成できたと思うこと (問 3)

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう	4名	100%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛け通じて交通事故防止につなげる	0名	0%
行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	2名	50%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう	2名	50%
その他	1名	25%

(4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

- ① 本事業に、実行委員として参加したことで、交通安全教育などの知識や技術向上

の機会となったかについて、実行委員の 100%（4 名）が「大変役立った」、「役立った」と回答した。（表 21）

表 21 知識や技術向上の機会となったか（問 4-1）

大変役立った	2 名	50.0%
役立った	2 名	50.0%
ふつう	0 名	0%
役立たなかった	0 名	0%
全然役立たなかった	0 名	0%
未回答	0 名	0%

② 本事業に参加したことで、有益だったことについて（複数回答）

実行委員の 75%（3 名）が「交通安全に関する知識の習得について」、「行政や警察、他団体との連携」と回答した。（表 22）

表 22 有益だったと思うこと（問 4-2）

交通安全に関する知識の習得について	3 名	75%
交通安全教育を行う際の指導方法について	2 名	50%
交通安全教室実施のための企画立案について	2 名	50%
交通安全教室の運営について	1 名	25%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	0 名	0%
行政や警察、他団体との連携について	3 名	75%
その他	0 名	0%
未回答	0 名	0%

③ 本事業に参加したことで、今後の交通安全活動に活用する予定について、75%（3 名）が「活用していきたい」とする一方、25%（1 名）が「どちらともいえない」と回答した。（表 23）

表 23 今後の活用予定について（問 4-3）

活用していきたい	3 名	75%
一部活用していきたい	0 名	0%
どちらともいえない	1 名	25%
活用することは難しい	0 名	0%
未回答	0 名	0%

④ 本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の 50%（2 名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した一方、同数で「実施したいが、困難だと思う」と答え、「資金、運営面での負担、特にスタントマンを呼ぶのは困難」とするものであった。（表 24）

表 24 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	2名	50%
実施したいが、困難だと思う	2名	50%
実施したいと思わない	0名	0%
どちらともいえない	0名	0%
未回答	0名	0%

(5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。(自由記述)

- ・世代を超えた学びの機会（子どもから高齢者まで）、継続的な広報、啓発
- ・一つの団体で実施できる事業は、予算面、体制面から限界があるため、今回のように複数の団体が協力して定期的に活動ができると良い
- ・機会は多いほど好ましい
- ・高齢者には体験型の教育が効果的と認識しており、より多くの人に参加を呼び掛ける必要がある
- ・幅広い世代を対象に、継続的な広報・啓発の実施が必要

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。(自由記述)

- ・運転支援システムの進歩を実感した
- ・生の現場を見たり、実際に体感することは予想以上にインパクトがあり、座学等では得られない大切な効果があると感じた
- ・常に安全運転に心がけること、高齢者ほどサポートカーが必要
- ・公共交通が脆弱な本県にとって高齢者へのサポートカーの普及が重要と感じた

(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)

- ・参加された方々は関心や意識も高いが、こうした講習に普段参加しない高齢者に対する啓発、意識付け等が課題であり、機会が増える老人クラブ等への参加を呼び掛けていきたい
- ・地域の団体では実施困難な体験型交通安全教育は、参加者にとって非常に有意義な取り組みであると思うので、今後も是非継続して欲しい

※各表の構成率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。